図６「日比谷音楽堂倒壊」（「震災絵はがき」より）（1923 年）

崩れ落ちた日比谷音楽堂。地盤の弱い神保町や日比谷周辺では多くの建物が倒壊した。

この関東大震災の被害で、千代田区域の世帯、人口も激減している。下図は、震災前（大正 12 年 6 月末）と震災後（大正 13 年 6 月末）の麹町区と神田区の総世帯数と人数である。とくに神田区では、震災後は約３割の人口が減っている。ちなみに震災前の東京市全体の総世帯数は 44 万 1872 人、人口 203 万 6136 人、震災後は総世帯数 37 万 6413 人、人口 174 万 1500 人となっている。東京市の多くの地域で総世帯数、人口とも減少しているが、四谷地区などでは、罹災者の集合生活により人口が増加した地域もある。

震災前後の世帯数と人口	震災前（大正 12 年 6 月末）		震災後（大正 13 年 6 月末）	
	世帯数	人数合計	世帯数	人数合計
麹町区	10, 393	54, 982 人	9, 850	48, 493 人
神田区	26, 610	139, 537 人	20, 803	102, 860 人

（「震災後の一年間」『大阪朝日新聞』1924 年 9 月 15 日よりデータ抽出）

避難民と救援活動

関東大震災の直後、建物の倒壊や火災から難を逃れた人々は、様々な方法、手段によって避難している（**図７・８・９**）。とくに千代田区域の丸の内周辺（東京駅、外濠、和田倉門、宮城前広場〈現在の皇居外苑〉、日比谷公園）などには 15 万人の人々が避難したという（**図 10**）。

徒歩で避難する人々

図７　「火焔に追はれる避難民」（「震災絵はがき」より）1923 年

鉄道（貨物列車）で避難する人々

図８　「罹災難移民退京の雑踏」（「震災絵はがき」より）1923 年

船で避難する人々

図９　「見倉橋の避難船」（「震災絵はがき」より）1923 年

（見倉橋＝現在の千代田区東神田二・三丁目と神田佐久間町四丁目の間を結ぶ、神田川に懸かる橋）

図 10 「東京駅前震災当猛火襲来避難実況」（「震災絵はがき」より）1923 年

大地震発生後、東京駅（千代田区丸の内一丁目）に避難場所を求めて集まる人々

貨物列車や避難船で避難する人々は、親族を頼って地方などに向かい、あてのない人々は、テント生活や仮小屋での生活を強いられることになった。公的な救援活動としては、まず東京市の各所に傷病者の治療にあたるための「救療班」が設けられた。麹町区では、日比谷公園、九段坂上など 15 カ所、神田区では東京商科大学（現在の一橋大学の前身、千代田区一ツ橋）など 5 カ所に設置されている。また避難民に対しては、食糧供給がなされた。千代田区域では、麹町区の東京市庁舎と日比谷公園での震災から約一か月間にわたり、延べ 153 万人以上に握り飯の配給がなされている。そのほか、麹町高等小学校、富士見小学校、日比谷小学校、神田区役所、佐久間小学校で炊き出しが行われている。

さらに、避難民のためのバラックの建設が市内各所で進められた。バラックとは、もともとは駐屯兵のための宿舎という意味であるが、被災後の焼け跡などに、ありあわせの材料を用いて作られた粗末な仮小屋のことである。多くの人々はバラックを自力で建てるなどして、生活の再建に取り組んだのである。震災直後、宮城前広場（現在の皇居前広場）には、約１万３千人の避難者があり、廃材やトタンで作られた小屋で多くの人々が避難生活を送っていることが、当時の古写真からもうかがえる（**図 11・12**）。

一方、東京府・市・警視庁による罹災者収容の集団バラック（仮設住宅）の建設も急ピッチで進められた。日比谷公園（千代田区日比谷公園）内には、146 棟 1500 世帯収容のバラック、靖国神社前（千代田区九段北）には、70 棟 627 世帯収容のバラックが建設されたという。そのほか、区内の小学校や公園などにも建設され、多くの罹災者が避難生活を余儀なくされた。公設のバラックは木造で電灯も備わっていたが、排水施設の不備などもあって衛生面などの問題もあり、また秋から冬に向かう季節ということもあって、健康を害する住民も多かったようである。

図 11 「二重橋前の避難民—東京大地震の惨状」（「震災絵はがき」より）1923 年

二重橋（千代田区皇居外苑）の前には、多くの人々がバラックを建てて避難生活を送った。

図 12 「日比谷公園内に立ち並んだバラック村」（『大正十二年 大震災記念写真帖』山田商店、1931 年より）

日比谷公園（千代田区日比谷公園）内には公設の仮設住宅が建てられ、多くの市民が避難生活を送った。

おわりに

今回は、千代田区における過去の自然災害について「安政大地震」（1855 年）と「関東大震災」（1923 年）に関する視覚的な情報（鯰絵や瓦版、古写真、古絵図・地図など）を中心に情報収集を行った。いずれもたくさんの市民が亡くなった大災害であるが、当時の幕府や東京市・区の緊急時における対応能力は高かったといえる。また震災後の災害復興に向けての取り組みも早く、学ぶことも多い。現在は安政大地震や関東大震災のときと比べれば、災害情報の収集・伝達、提供システムなどは格段に充実している。また現代の人々の生活様式や社会体制なども大きく変化しているのは言うまでもない。し

かし、現代の我々が少しでも過去の自然災害の情報を知り、来たるべき災害発生時に過去の人々の状況を想像してみることには意義があると考える。災害が発生した後、厳しい状況の下で人々はどのような行動をとるべきか、どのように困難を乗り越えていくべきかということは、時代を超えた共通の課題でもある。今回は、千代田区における過去の自然災害に関する情報の集積に留まり、その分析について十分とはいえない。今後も引き続き、情報の集積・分析を行い、そこから何が見えてくるのか、ということを明らかにしていきたい。

参考文献

・『関東震災画報』第1～3輯、大阪毎日新聞社、1923年
・『関東大震災画報：写真時報』東京写真時報社、1923年10月
・『大正大震災写真帖』報知新聞編輯局、1923年
・『大震災写真画報』第1～3輯、大阪毎日新聞社、1923年
・「震災後の一年間」『大阪朝日新聞』1924年9月15日
・『大正大震火災誌』山本美編、改造社、1924年
・『東京府大正震災誌』東京府、1925年
・『東京震災録 別輯』東京市、1927年
・『大正十二年 大震災記念写真帖』山田商店、1931年
・『安政江戸地震災害誌』上・下巻、東京都総務局行政部、1973年
・『大地震 安政の大地震と関東大震災』(『太陽』165：77年2月号) 平凡社、1977年1月
・北原糸子『安政大地震と民衆』三一書房、1983年
・『新編 千代田区史 通史編』東京都千代田区、1998年
・野口武彦『安政江戸地震』筑摩書房、1997年
・『(財)東京市政調査会市政専門図書館所蔵　関東大震災に関する文献目録』(図書編 雑誌編「都市問題」掲載編) 、(財)東京市政調査会市政専門図書館、2005年1月
・『絵図で読み解く 天災の日本史』(磯田道史監修)、宝島社、2015年
・大久保純一「幕末・明治の出版にみる災害表象―風景表現を中心に―」『国立歴史民俗博物館研究報告』第203集、国立歴史民俗博物館、2016年12月
・「1855安政江戸地震」『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書』内閣府、2004年3月
http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1855_ansei_edo_jishin/index.html
・「安政大地震絵―国立国会図書館デジタルコレクション 」国立国会図書館、2011年(ndl.go.jp)
https://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/1304705?tocOpened=1
・「天下大変―資料に見る江戸時代の災害―」「2.安政見聞誌」国立公文書館、2016年(archives.go.jp)
http://www.archives.go.jp/exhibition/digital/tenkataihen/earthquake/contents/02/index.html
・「国際日本文化研究センター　鯰絵コレクション」(nichibun.ac.jp)
https://shinku.nichibun.ac.jp/namazu/ichiran.php

（2）安政大地震における千代田区と刷り物

森谷 ひとみ（共立女子大学大学院）

安政大地震の概要とその被害状況

安政２年（1855）10 月２日（11 月 11 日）の夜、江戸で起った大地震はその元号から「安政大地震」と呼ばれている。その被害が激しかった地点は、江戸とその東隣の地に限られ、直径約 5～6 里で範囲は極めて狭かった。江戸市中の被害は極端にひどく、地震後に起った火災では、約十四町（約 1.5 キロメートル）四方に相当する面積が焼失した。江戸町奉行支配下の死者は 3,895 人、武家に関する分を合わせて市内の震死者の総数は約 7,000～10,000 人であろうと推定される。潰家は 14,346 戸に及んだ。

千代田区においては、現在の丸の内周辺が震度６以上の地震に襲われている。これにより、江戸城の石垣が一部崩壊するなどの被害に見舞われているほか、大名小路（現在の千代田区丸の内周辺）にあった 55 家の大名屋敷は倒壊や火災などほぼ全てが何らかの被害にあっている。これらの家屋の倒壊は、丸の内の土地が近世初頭にかけての日比谷入江の埋め立てによって形成された土地であり、その地盤が脆弱であったことが原因であると考えられている。

地震関係の刷り物

安政地震当時の被害状況を表すものとして、浮世絵や版本などの刷り物が存在する。その中で有名なものとして、『安政見聞誌』（仮名垣魯文著・歌川国芳ほか画、安政３年〈1856〉刊、**図１・２**）がある。これは、安政江戸地震のルポルタージュで、記載されている内容及び挿絵には安政大地震の凄惨な様子が描かれている。中でも倒壊した家屋の描写からは、地震の大きさとそれによる被害がわかる。その他、火災の描写も多く、都市の多くの地点で孤発的に火災が発生していることがうかがえる。

図１『安政見聞誌』上巻　安政３年（1856）刊（早稲田大学図書館）

また、『安政見聞誌』には崩壊した江戸城の石垣に関する挿絵もあり、「石垣二十一間ほどが堀へなだれ落ちた」「今にも崩れそうな様子の石垣があった」との記述も見られる。石垣の上にかぶさっているのは

古松で、これが根から倒れてしまったとの記述も見られ、この地震がこれまでになかった規模で江戸城を襲ったことがうかがえる。

図２『安政見聞誌』下巻　安政３年（1856）刊（早稲田大学図書館）

火災の被害地域については、『安政二卯十月二日大地震附類焼場所』（**図３**）という瓦版が存在する。その瓦版は被害地域が赤く塗られた絵図の形式で、小川町（現在の千代田区神田小川町）や大手町に火災があったことが見てとれる。また、鍛冶橋周辺にも火災が見られ、千代田区内では多くの火災が発生していたことが確認できる。小川町の部分には「大名小中きとも多くやける」とあり、被害状況の情報とも合致する。その他、江戸城に近い松平家の屋敷も燃えていることがわかる。安政大地震はその地震の規模に対して火災の範囲が広くないとされるが、これは当日の風向きが関係するとされ、状況が悪ければ火事は実際以上に広がり、さらなる被害が出ていた可能性がある。

図３　瓦版『安政二卯十月二日大地震附類焼場所』安政２年（1855）（東京大学総合図書館 石本コレクション）

安政大地震の刷り物として他に、浮世絵が多く存在する(**図４・５**)。これには家屋の倒壊や、焼け出されたことによって家を失い、少ない家財を持って逃げてきた人々が描かれているものもある。また当時、地震は鹿島神宮（茨城県鹿嶋市）の要石下に封じられている大鯰がおこしたものと考えられており、鯰と人々を共に描いた「鯰絵」と呼ばれる浮世絵が数多くある。それらは浮世絵文化と人々の信仰が合わさった結果であり、地震によって利益を得る職があったことなど、人々の生活と地震との関わりを教えてくれる貴重な史料でもある。これら浮世絵は幕府によって規制されたが、絵師・版元・刷り師を記載せずに数多く発行されることとなり、現代の我々に興味深い情報を提供してくれている。

図４　「ぢしんにてやけたるあとは浅草に」安政２年（1855）（国際日本文化研究センター 鯰絵コレクション）

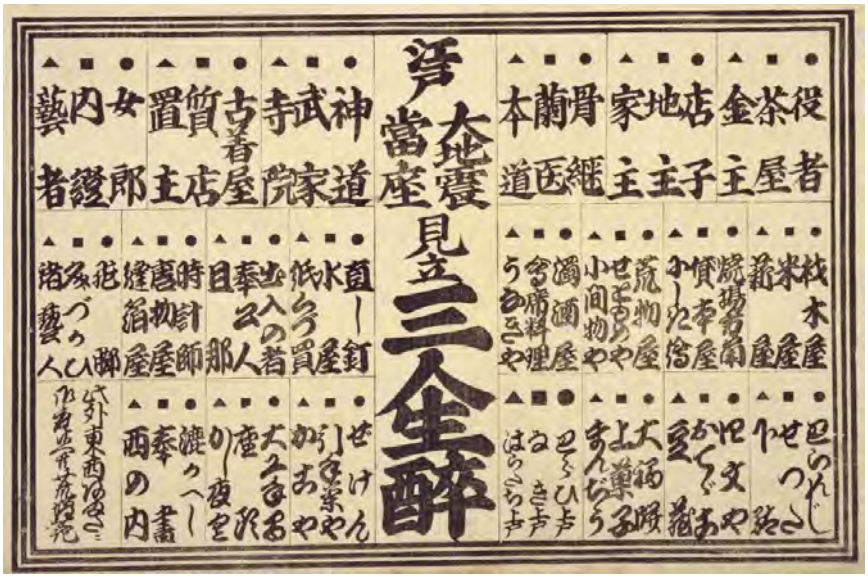

図５　「江戸大地震当座見立三人生醉」安政２年（1855）（国立国会図書館デジタルアーカイブ）

参考文献

・【安政の地震】（あんせいのじしん）（Japan Knoeledge Lib：『国史大辞典』）
https://japanknowledge-com.ezproxy.kyoritsu-wu.ac.jp　（参照 2022-01-19）

・「1855 安政江戸地震」『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書』内閣府、2004 年 3 月
http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1855_ansei_edo_jishin/index.html

・「天下大変―資料に見る江戸時代の災害―」「2.安政見聞誌」国立公文書館、2016 年(archives.go.jp)
http://www.archives.go.jp/exhibition/digital/tenkataihen/earthquake/contents/02/index.html

・『安政見聞誌』上・中・下巻　安政 3 年（1856）刊（早稲田大学図書館所蔵）
https://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/wo01/wo01_03754/index.html

・『安政二卯十月二日大地震附類焼場所』安政 2 年（1855）（東京大学総合図書館蔵）
（東京大学学術資産等アーカイブズポータル／u-tokyo.ac.jp）
https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/assets/0645fbef-17d4-4958-b657-09303e9c740f

・「国際日本文化研究センター　鯰絵コレクション」（nichibun.ac.jp）
https://shinku.nichibun.ac.jp/namazu/ichiran.php

・「安政大地震絵―国立国会図書館デジタルコレクション 」国立国会図書館、2011 年(ndl.go.jp)
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1304705?tocOpened=1